

開講期	2025年度後期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	6121 視覚芸術表現の基礎2			開講形態 (隔週偶数 = 隔週2コマ)	週間授業
種別	なし			定員	
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	×	全学開講	○
曜日時限	火曜2限				
教室	B207教室				
代表教員	大坪 晶				
担当教員	大坪 晶				
テーマと到達目標	現代美術としての映像の歴史と作品を多角的に読み解いてゆく。様々な表現に触れながら、制作手法や発想のあり方(コンセプト)を批評的に検証し、思考する能力を養うことが到達目的である。				
概要	複雑に分断された文化や国境を持つ現代において、映像は人間の認知(実存)機能と、世界との共時的な感覚を補完してきた。現代美術における映像表現は、多様なテクノロジーと融合しながら進化を続けている。取り扱われるテーマも多文化主義や、ポストコロニアリズムなど、現代の社会課題に積極的に光を当てる。映像表現(ビデオ、写真、それらを用いた複合インсталレーション)を紹介しながら、他者を有機的につなげる「神話」として映像表現を定義し、その可能性を考えてゆく。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員 (複数の教員が担当する場合のみ記載)	授業方式
第1回	はじめに_いまなぜ映像表現(現代美術)を学ぶのか				対面授業
第2回	モノローグとしての映像作品				対面授業
第3回	拡張する意識と身体				対面授業
第4回	ポストメディウム論から考える				対面授業
第5回	私たちは他者の記憶にいかに向き合えるのか				対面授業
第6回	インタラクティブ(メディアアート)としての映像				対面授業
第7回	映像作品のヴァナキュラー(土着性)について				対面授業
第8回	アーカイブと映像作品				対面授業
第9回	哲学/心理学から思考する映像作品				対面授業
第10回	ビデオインсталレーション、その技法と実践				対面授業
第11回	映像/写真/絵画(静止することと、動いていること)の違いと組み合わせについて				対面授業
第12回	国際芸術祭の中の映像作品				対面授業
第13回	パフォーミングアーツの中の映像				対面授業
第14回	東ヨーロッパの映像表現				対面授業
第15回	現代美術としての映像表現				対面授業
成績評価の基準	3分の2以上の出席、課題提出が単位取得の条件である。毎回のミニレポートに加えて、期末のレポート提出(1200字以上)によって評価する。				
履修にあたっての留意事項	「視覚芸術表現の基礎1」前期 火曜日2限と同時履修が望ましい。				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					
【種別】 人数制限(抽選) 授業の優先条件					

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	特になし
---------------	------

教科書	特になし	教科書(ISBN)	
参考文献	授業時に提示する	参考文献(ISBN)	